



今年度の田植えには、東海大学のアラブ首長国連邦からの駐日大使、留学生を含めて約25名の大勢が参加されました。初めての事です。

写真の左側の方は「落合平塚市長」さん、右側方は「カリド・オムラン・スカイト・サルハン・アルアメリ駐日アラブ首長国連邦大使」のお二人です。

大使は東海大学を卒業されました。後に、湘南工科大学で工学修士となられ、母国でIT関連の諸企業に携われ、2016年1月に駐日UAE特命大使に就任され現在に至っておられる方です。趣味は読書、サイクリング、自動車レース、登山とスマートなスポーツ派とお見受けしました。実に流ちょうな日本語を操られ、参加者の多くの方々と気さくに言葉を交わしておられました。

あいさつで「私たちが、地域コミュニティの部分となり、米づくりを体験することを楽しみにしています。皆さんと交流ができることがとてもうれしいです。日本ではおいしいお米を食べていますし、今回の体験で農家の人たちの心を感じたいと思います」と、話されていました。

田植の経験と平塚の場で国際交流が体験できたことに参加者一同、予期せぬ出来事に大いなる感動の時を過ごし、田植えの手にパワーがみなぎりしました。



ハッパ会の会長さんから田植えの極意が伝授され、真剣に聞き入ります。



おぼつかない手つきですが、学生さんたちはアクティブです。  
大使も田に入りました。写真からは、学生たちへの気配りが感じられます。



アラブ首長国連邦は乾燥気候で水田がありません。「お米は輸入品として国内で販売されている。日本のお米はやわらかくおいしい」（学生談）  
足に伝わる水田の感触。手に持つ苗。いずれも初体験です。



大使（一番右端の方）「御手植えの苗」。 喜びの表情が伝わります。  
秋の収穫が楽しみです。



田植は東西に分かれて植え進みます。西側の学生さんたち。





学生さんたちの背後に、日本の参加者の様子が写ります。



東西に別れてスタートした田植えは進み、手が届く幅になりました。  
終盤です。 大使の御手植えは、最終章を迎えました。

(追録) 米作り体験隊2018年度 第1回 (その1)に加えて(その2)を報告いたします。大使、留学生の皆さんの楽しそうな姿をご覧ください。10月20日には稲刈りが行われます。皆様のご参加をお待ちいたしております。

(訂正) 大使のお名前を間違えてしまいました。(その1) p4 カリド・オムラン・スカイット・サルハン・アルメリ をアルアメリと訂正させていただきます。失礼いたしました。